

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202002		
法人名	生活介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームさざんか(1階)		
所在地	松戸市幸田2丁目140		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成26年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者それぞれのこれまでの生活歴や暮らし方を尊重し、ご本人・ご家族の思いや意向を中心に作成したケアプランを基に、日々支援を行っている。 ・それぞれの利用者には、ともに生活を営むパートナーとして、尊厳と感謝の気持ちを伝え、コミュニケーションやスキンシップを大切に寄り添い支援している。 ・グループホームのケアは認知症のケアであるという意識を常に持ち、職員が専門職としての知識や経験を得られるよう育成している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自治会の定例会や、地域の防災訓練、盆踊り、お祭り、クリーンデイや老人会の踊りに参加する等積極的に地域と関わっている。またホーム独自の「かわら版」を発行し近隣宅へポストイングにより配布したり、散歩の際には積極的に声かけする等、地域との交流を深めている。特に「かわら版」では、ホームの防災に向けた取り組みについてを記載し、近隣の方の理解を深めているほか、家族に対しても「伝言災害ダイヤル」の使用方法を定期的に周知する等、防災に向け意識高く取り組んでいる。防災以外にも、法人本部の接遇マナー研修を受講した職員が、ホーム内で伝達研修を実施し、さらに「接遇はケアの本質」とし、期間を定めて、職員自身で声かけや対応について振り返りができるように取り組む等、接遇面の強化に向けても意識高く取り組む姿勢が確認できた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が自宅を離れても住み慣れた地域で、尊厳を持ちこれまでのくらしを継続できるよう「介護の中に生活の視点を持ち、役割のある生活を支援する」ことを理念として実践している	法人の理念である「介護の中に生活の視点を持ち、役割のある生活を支援する」を入職時に職員に伝え、職員の理解が深まるように取り組んでいる。理念の実践に向けては、日常生活の中で利用者に役割を持って頂き、利用者主体の支援が図れるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	設立11年目を迎え、地域の一員として受けとめていただいている。自治会に加入し、行事に参加している	自治会の定例会や、地域の防災訓練、盆踊り、お祭り、クリーンデーや老人会の踊りに参加する等積極的に地域と関わっている。またホーム独自の「かわら版」を発行し近隣宅へポストイングにより配布したり、散歩の際には積極的に声かけする等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者支援連絡会に参加し事例検討会への事例提供、老人会の集まりでグループホームはどんなところか？などを紹介した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回定期開催し、ご家族には輪番で参加していただいている。行政や地域の代表者の方とともに、様々な報告や運営へのご意見などをいただき活かしている	運営推進会議には、地域包括支援センター、介護相談員、民生委員、利用者家族の出席を受け、2カ月に一度定期的に開催している。会議により話し合われた内容は、サービス向上に活かされており、その議事録は出席者のほか全家族に配布している。	運営推進会議に自治会長の参加を呼び掛けているが、参加が難しい状況であるため、自治会の他のメンバーに声を掛けるなど、地域の方の参加が進んでいく事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	松戸市介護保険課から随時情報が提供され活用している、介護相談員が毎月訪問され、グループホーム協議会では、市の担当者によるケアプランや運営面へのアドバイスなどの機会を得ている	市担当者との連携では、運営上の疑問点等についての確認やグループホーム連絡会(2ヶ月に1回)への出席を通じて、市の担当者と連携を図っている。最近ではケアプランの立て方についてアドバイスを受ける等、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約書「第8条・身体拘束その他の行動制限」について利用者・ご家族と確認し契約している。職員には、日々、利用者の尊厳を傷つける行為をしていないか？という視点を持ち支援するよう指導している	県の身体拘束の研修(基礎課程)に1名参加し、ミーティング時に研修報告を行なっている。管理者及び職員全員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について施設内研修や、市、県主催の研修に職員が参加し学ぶ機会を持っている。苦情など意見箱を設置して、意見が発信しやすいようにしている。		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者が数名入居している。 3年前から大学主催の「市民後見人養成講座」の受講生の実習を受け入れ、互いに状況を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時・解約手続き時、充分時間を取り説明し納得いただくよう進めている。改定時は、説明会の開催、書面を含めた質疑応答、全入居者ご家族の同意を得て改定を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来所時の会話、あるいは意見箱でいただいた意見・要望を、運営推進会議や職員ミーティングで協議し、運営に取り入れている。運営推進会議議事録は全家族・参加者に送付して伝えている。	家族からの意見や要望については、面会時やイベント開催時に直接伺っているほか、玄関に意見箱を設置して意見等を表出できる機会を設けている。利用者の意見等については、日常会話からの収集のほか、介護相談員の協力を受け、表出できる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、各委員会の所属しそれぞれの意見を出しながら運営に参加している。業務変更の際などアンケートで意見を集約して全員が納得して運営できるようにすすめている。	運営に関する職員の意見や提案を聞くために年1回自己点検(理念を基に自己の業務を振り返って自己評価をする)を踏まえて個人面談を実施している。また日々の朝の申し送り時、全体ミーティング、ケースカンファレンスやサービス向上委員会の際にその機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な側面からの人事評価、職員は自己点検で課題を明確にし、向上するよう育成。育児や子育て、介護や病気など、その状況に応じて、制度をフルに活用し環境面でもバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅職員が、接遇をテーマに5回シリーズで研修を受講後、事業所内で全職員が「自分の課題」を決めて1か月間実践した。その結果を振り返り、更に日々のケアに活かすという取り組みを行った		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例の松戸市のグループホーム協議会での情報交換や事例研究、セミナーや交流会。社内のグループホームの職員が集まってテーマを設けて話し合う交流・研修会に参加している		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後の生活がイメージできるよう、見学時、他入居者と同席して過ごしていただく。見学が無理な場合は入院先やご自宅などに赴いて、ご本人と面談し関係づくりをする。本人理解のための情報収集に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で、入居の動機やご本人様や家庭の状況などを可能な限り聴き取りしている。こちらの現状を説明した上で、施設での生活への希望や要望などを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族から情報をいただき、これまでの生活が継続することを優先し、新しい環境に慣れるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体性を持つことが充実した生活につながるという視点で、自立支援であることを念頭におき、それぞれが出来ることを出し合いながら共同生活を支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をオープンに伝え情報の共有を図る。介護側の課題を率直に伝え、本人を真ん中に家族と共に支える関係づくりを目指している。また、本人にもお話して家族の支えを受けとめてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と連絡を取り、ご友人に来所していただいている利用者。また、ご夫婦が1Fと2Fに分かれて入居され、日課として行き来されたり一緒に散歩をされている	馴染みの人や場との関係継続の支援としてご友人の来訪(家族の同意後)を受けたり、家族の協力を得て馴染みの美容院やお店などへの外出、外食、墓参り、ご帰宅等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、ゲームやレクリエーションなどを通して交流を意識的に行っている。階が違って、気の合う利用者同士と一緒に過ごせるようケアプランのサービス内容に具体化して実践している		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後の家族とのつながり、転居時の情報提供、転居後の交流など可能な限り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やプランの見直し時に伺ったことを、受けとめ介護計画に取り入れている。聞き取りが困難な場合は、ご家族に伺い職員間で検討し合い確認している。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等のご協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、ご利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力していただき「センター方式」などを使ってご本人を多面的に理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに心身の状態や過ごし方を介護記録や申し送りを通して、共有している。介護計画の見直し時には「センター方式」を使ってアセスメントしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のようすをモニタリングし、3ヵ月、6ヵ月という期間で区切り(変化があった場合は必要に応じて)ケアカンファレンスを行い、ケアの見直しや新たなニーズの掘り起こしをして作成している。	アセスメントで収集した情報を分析し、担当者会議において職員からの意見や提案を聞き、ケアプランを作成している。ケアプランで掲げた目標については、毎月のモニタリングの中で進捗状況を確認している。	今後に向けては、担当者会議議事録に主治医や訪問看護師の見解も入れ、他職種連携で進めていける事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容に基づく支援を常に意識し、介護記録に実践項目を記載している。具体的な支援方法の工夫や変更点を全体で共有して、統一ケアを行い、それらをモニタリングし見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝のモーニングコールを家族に依頼する、外部医療機関受診時、家族に同行し状態を伝える。毎週末、日中はご自宅で過ごされることや、ご主人との外出の習慣など、利用者のニーズに合わせて対応している		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉用具の専門家に、利用者毎の日常動作の状態などを相談し具体的な介護技術や設備の整備方法のアドバイスを受けている。その他・地域資源の活用は今後の課題と認識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関による24時間体制の在宅総合診療だけでなく、ご本人やご家族の希望や必要に応じて、継続した医療が受けられるよう医療機関への情報提供や受診時の同行をしている。	受診は本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を家族の協力を得ながら築き、適切な医療を受けられるようにしている。また提携医療機関の在宅総合診療(月2回)を構築しているほか、週1回の訪問看護師による健康管理・健康指導がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理・健康指導の他、急変時は随時、報告・相談し処置や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関との情報提供、看護・介護サマリーの交換を始め、家族と医師との面談に同席するなど、利用者が環境変化に混乱せず早期に回復できるよう協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、「急変時及び終末期に関する確認書」にて意向を伺っている。その時期には主治医、看護師、施設側と意向を再確認した上で、サービス計画書を作成、職員間で共有、医療機関と連携してケアを行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら「重度化した場合の対応に係る指針」や「同意書」を取り交わし、主治医、看護師及び関係者と共にチームで支援にも取り組む方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基本に、職員間で周知徹底している。その他、ヒアリハットや事故発生後は申し送り時やミーティング時に、事故の検証や対策を共有・協議し、各自の実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、どのような防火対策を行っているかを地域にお知らせするための広報誌を配布した。自治会主催の災害訓練には必ず参加し、互いに共助が可能となるよう努めている	火災通報、避難訓練、夜間想定のお知らせ、避難訓練を消防署と連携し年2回実施している。また、地域の防災訓練にも参加している。施設では毎月1日を「防災デー」と称して、自主訓練を行っているほか、家族の方に「かわら版」(施設だより)にて「災害伝言ダイヤルの試し利用」を促している。	火災や地震を想定した訓練については消防署と連携して計画的に実施しているが、今後に向けては、ホーム周辺の水害の状況についても把握できると良いであろう。

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な接遇マナーの他、利用者それぞれの人格に配慮した声かけや対応ができるようコミュニケーション技術を研修・実践し、職員間で共有している。具体的な支援としてサービス内容にもしている。	法人本部の接遇マナー研修を受講した職員が、ホーム内で伝達研修を実施し、さらに「接遇はケアの本質」とし、期間を定めて、自らの声かけや対応について自己を振り返り記録し、反省するという研修を行うなど、ホーム全体で意識高く取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的な接遇マナーの他、利用者それぞれの人格に配慮した声かけや対応ができるようコミュニケーション技術を研修・実践し、職員間で共有している。具体的な支援としてサービス内容にもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の希望や課題を援助目標としてサービス計画書に反映し、そのサービス内容に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣時や整容時に伺う。毎月の訪問理美容の活用。外出、行事の時など、お化粧・おしゃれであらたまった気分を楽しんでいただくなど。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	祭事や慣習など季節感を取り入れ、利用者の楽しみを増やし食事への満足度が高まるよう心掛けている。毎日、準備や片づけと一緒にいき食事作りへの参加感を大切にしている	利用者一人ひとりが出来る範囲で盛り付けや調理、後片付け等を手伝いながら、準備や食事を楽しんでいる。ホームの畑では野菜作りも行い栽培や収穫を楽しむほか、行事では季節に合わせて工夫を凝らした食事作りに取り組んでいる。外食も個別対応で支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の健康状態に合わせたメニューや食事形態を工夫し、個々の食事量や水分量をチェックし記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療所の指導の下、1人1人の口腔状態、ご本人の力に合わせた方法で口腔ケアを行っていただき、ご本人が出来ないところは介助を実践している		

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを把握し、日中は、利用者全員トイレ誘導している。夜間はADLに合わせて、声かけ・見守り・介助を行う。	利用者一人ひとりの排泄状況を「排泄表」によりチェックし、職員間で把握している。排泄介助の際には、定時の声かけや誘導により、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握しトイレ誘導する。運動の実施や水分摂取量の管理の他、ヤクルト、ヨーグルト、オリゴ糖などを取り入れている。主治医に相談し服薬調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あくまで本人主導としながら、入浴が楽しみになるような声かけや雰囲気づくりを大事にしている。入浴中は職員との1対1のコミュニケーションの場として、リラックスしていただけるようにしている。	利用者一人ひとりの体調やタイミングに考慮し、週2～3回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、安全面に配慮しているほか、入浴を楽しめるように、入浴剤を使用する等個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活リズムに合わせて安心して休めるよう居室の環境を整え、支援している。不眠の時は、本人が穏やかに過ごせるよう見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更点は申し送りや連絡ノートで全職員が把握、服薬表はいつでも見れるようにしている。セットした服薬を複数の職員で確認し、服薬提供時は、本人へ口頭で伝えて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで楽しまれてきたことや得意にしてきたことが続けられるよう支援する。日常が単調にならないよう、レクリエーションを取り入れ、入居者同士が交流し笑顔が生まれるようなひとときをつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院へ出かけてのヘアカットや、コンサートホールでのイベント参加など、可能な限り、利用者の希望が実現するよう支援している	日常としては天候の良い日にはホーム周辺の散歩に出かけているほか、お花見、初詣、ドライブや近隣の公園など外出計画を企画し実行している。また、また、普段は行けないような場所については、本人の希望を把握し、家族と協力しながら、外食、ショッピングに出かけられるように支援している。	

グループホームさざんか(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週、ヤクルトの訪問販売で買物体験したり、ご本人の要望の買物に職員が同行し買い物を楽しんでおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族からの電話、携帯電話を所持され家族と近況報告しあうなど、自由にやりとりしていただいている。職員が代筆して遠方のご家族と手紙のやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・整理整頓を第一に、体操や身体を使ったゲームも楽しめるようスペースを確保している。季節感を取り入れ、手作りカレンダーや、利用者の作品や写真を展示。来訪者にとっても心地よい空間になるよう配慮している。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れている。また、利用者が日中一緒に過ごすリビングは、ゆったりと居心地よく過ごすことができ、屋外にはウッドデッキも設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や状況に応じて、テーブルやイスの配置を変えている。ソファや共有のイスで思い思いに過ごせるようにしている。ウッドデッキや庭も自由に出入りできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具や調度品を置いていただき、居心地よく自由に使っていただいている。一方、避難経路の確保、落下などの安全面を重視している。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みな物の持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮し、職員が整理整頓に努め、衛生面や安全面についても重視している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「センター方式」のできること・できないことのアセスメントから、利用者が安心して施設を使えるよう、表示や標識を設置したり、危険回避の対策、整理整頓の徹底を行っている。		